

平成26年度		学校評価報告書					加賀市立三谷小学校				
学校教育目標		「自ら学び、心豊かでたくましく、未来を切り拓く三谷っ子の育成」									
・めざす子ども像		みずから学び、自分の言葉で表現する子 たくましい体を持つ子 にご笑顔で、思いやりのある子 きょうを大切にす子									
評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	判定結果	成果と課題	対 策
①教育課程・学習指導	主体的な学習態度を育て、基礎的基本的な学力の定着と共に、言語活動を充実させ、活用力(思考力・判断力・表現力)の向上に努める。	「家庭学習」「はげみ学習」の充実を図る。 学力調査の結果の分析をもとに、児童に必要な力は何かを考察し、授業改善に活かす。	教務主任	学習意欲と基礎的基本的な学力の定着に個人差がある。 活用力を高める授業実践は十分とは言えない。	【成果指標】 学年相当の知識・技能が身につけている。 【努力指標】 活用力向上に向け、指導法の工夫改善に取り組むことができた。	国語・算数の評価テストの全ての観点で、80%に達した児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、授業「はげみ学習」・家庭学習の内容やそのあり方を再検討する。	単元毎に行う評価テスト等で行う。 学期毎に教員対象に調査を実施する。	A	「授業」「家庭学習」「はげみ学習」の充実を図ることで、多くの児童が学年相当の知識や技能を身につけることができた。まだ不十分な児童については、個別の支援を行い、成果も上がりつつある。しかし、まだまだ十分とは言えないので、授業改善も引き続き行うとともに、個別の支援も引き続き行う必要がある。	引き続き個別の学習支援をおこなうとともに、今後は特別支援学級の弾力的運用なども視野に入れて支援の方向を探る。今年度の学力向上プランの反省を活かし、来年度の学力向上プランを作成する。
	「単元を貫く言語活動の充実」を通して、児童の確かな言葉の力を育成する。	つけた力を明確にし、児童が主体的に目的意識を持って取り組める「単元を貫く言語活動」を国語科の各単元に位置付けていく。	研究主任	児童の言葉の力に個人差があり、つけた力が学校生活全般において生きて働く力にはなっていない。また国語科の授業づくりにおいて、単元を貫く言語活動を設定することは全教員が意識しているものの、各単元におけるつけた力はまだまだ不十分な点が多く、つけた力にばらつきや言語活動の選定について研究を深めたい。	【努力指標】 国語科の授業づくりにおいて、児童が主体的に目的意識を持って取り組むことができるような言語活動を、単元を貫いて設定した教師の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、研究先進校の取り組みなどを参考に、指導法の改善を行う。	学期毎に、教職員対象の調査を実施する。	A	児童が主体的に目的意識を持って取り組むことができるような言語活動を、単元を貫いて設定した授業づくりについては、次年度の取り組みに繋がるよう蓄積していくこととする。	来年度12月に予定している公開授業研究会に向け、外部講師を招聘しての校内研修会を開催し、単元を貫く言語活動と学び合う授業づくりについての、全教員のより一層の理解を図る。	
	自分の好きな読み物だけでなく、多分野にわたる本や良書(必読選定図書、並行読書の図書)をも選ぶことができ、進んで読書をする児童を育成する。	朝の読書や読書ノートの取り組みを継続することによって、読書習慣を培う。必読図書、並行読書を通じ、良書を楽しみ、様々な分野の本に触れることで読書への意欲を高める。	図書館指導担当	朝の読書の様子や読書の記録からほとんどの児童が読書習慣を身につけている。しかし、好きな読み物はたくさん読書しているものの、並行読書や必読図書にはなかなか目の向かない児童も見られる。	【努力指標】 担任が働きかけることで、児童が主体的に目的意識を持って読書活動に取り組むことができた。	【成果指標】 おすすめの本の紹介の活動を自分の選書に役立ててのことのできた児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	7・12月に児童を対象にアンケートを実施する。	A	多くの児童が「おすすめの本」の紹介活動を自分の選書に役立てることができた。読書活動の推進のための取組を全職員に分かり易くしたことで、6年間の見直しをもって児童に読書習慣を培うことができる。	今後も見直しをもてる取組を継続する。また積極的な読書活動へと繋がるよう学習集団を活かして交流する。
②生徒指導	集団の一員としての自覚と責任を持ち、進んで明るく楽しい学校生活を送ろうとする児童を育成する。	学級ごとに生活目標の具体的な取り組みについて話し合い、めあてを達成できるようにする。	生徒指導主事	気持ちのよい挨拶や言葉遣いについて気をつけ、進んで挨拶をする児童が増えたが、その他の生活目標については掲示や指導があるが、児童自らが取り組もうという意識は薄い。	【成果指標】 生活目標を理解し、めあてを達成することができる。	めあてを達成した児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	7・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。	A	自らめあてを決め、達成度を自己評価することで生活目標を具現化しようとする意識を持てた。	今後は各クラスでの取り組みを全校へと広げたい。
	縦割り集団活動を推進し、好ましい人間関係を育成する。	児童理解の場を適宜もち、児童個人および全体の様子について共有し、適切に指導・助言を行う。学校アンケートやQ-Uなどを活用し、個に応じたきめ細かな指導をする。	生徒指導主事	地域では児童たちの異学年の関わりが多いが、少人数に起因する人間関係の固定化が見られる。これらに対しては職員全体で共通理解し、児童のよりよい人間関係づくりを目指して指導にあたる必要がある。	【努力指標】 児童個人及び全体の状況の把握に努め、職員が共通理解をして指導・支援の改善をする。	Q-Uや児童理解の場などを生かした、児童の様子について共通理解し、指導・支援をした職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%以下	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	7・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。	A	QU-検査は、個の児童理解という面では有効であった。その結果を活用して自己肯定感が高まるような声かけに心がけた。生活アンケートも計画的に実施できた。	今年度に引き続き、QU-検査を実施するとともに意図的に自己肯定感が高まるような場面を授業等で積極的に設けていく。
③進路指導・キャリア教育	学校生活の様々な場で、自分の持ち味を発揮し、役割を自覚できるようにする。	道徳の時間に、1-(2)勤勉努力、4-(2)勤労、1-(5)(6)個性の伸長の内容項目でキャリア教育の視点を生かした授業を行う。	キャリア教育推進教師	自分に与えられた役割をきちんと果たすことができる児童は多いが、自分の持ち味を生かして役割を果たそうとする意欲にはやや欠ける面が見られる。自他の良さを自覚し、その良さを生かしながら、学級や学校の一員としての役割を自覚させたい。	【努力度指標】 道徳の授業で、1-(2)勤勉努力、4-(2)勤労、1-(5)(6)個性の伸長の内容項目でキャリア教育の視点を生かした授業に取り組む。	キャリア教育の視点を生かした道徳の授業に取り組んだ数が、 A 各学期に1回以上、年間4回以上 B 年間を通して3回 C 年間を通して2回 D 年間を通して1回	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	7・12月に教職員を対象にアンケート調査を実施。	A	自他の良さを自覚し、その良さを生かしながら、学級や学校の一員としての役割を自覚させるための道徳授業を実施できた。	今後は、これまでの取り組みについて振り返りし、キャリア教育の視点を生かした道徳授業を、継続して実施する。
	④安全管理	危機管理意識の高める訓練を通して、教職員の意識を高め、児童が安全で、安心した学校生活を送れるようにする。	外部の協力者から指導を受けながら、年3回の避難訓練の実施と内容の充実を図る。	教 頭	学期ごとに火災・不審者・地震対応の避難訓練を実施しているが、教職員や児童の意識を高めるため、実践的な訓練も必要である。	【満足度指標】 様々な状況に対して、職員や児童が適切かつ安全な避難行動ができる。	避難訓練が危機意識を高める、実践的な訓練になった。 A 3回とも B 2回 C 1回 D ならなかった。	CDの場合は、指導計画や内容を再検討する。	実施後職員にアンケートを実施する。	A	火災訓練、不審者対策訓練共に俊敏に避難ができた。不審者対策では、地域や警察の方に、「命を守る訓練」と「児童引き渡し訓練」でも全保護者や地域の方の協力を得て充実した訓練ができた。
定期的な点検活動を通して、児童が安全で、安心した学校生活を送れるようにする。		毎月の管理場所の安全点検の実施と日常での気になる個所の報告の充実を図る。	教 頭	毎月管理場所の点検は、実施しているが、校舎の老朽化に伴い、日常的にも気になる個所への配慮も必要である。	【満足度指標】 定期的な管理場所の安全点検や日常的な気になる個所への安全確保に努める。	安全確保に努めている教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、点検内容や意識づけに向けて再検討する。	職員アンケートおよび安全点検表でチェックする。備考欄にその他気になる個所についても報告する。	A	各担当場所に関わらず、気がついたときにはすぐ報告してもらうことができ、改善することができた。	日常での気になる個所の報告の充実を図り、安全確保に努めていく。
⑤保健管理	健康の保持増進に向け、積極的に運動に親しもうとする態度を育て、児童のバランスのとれた体力の向上を図る。	体育科の授業の中に、年間を通してコーディネーショントレーニングを位置付けるとともに、マラソン大会・縄跳び大会等、体育的行事に向け強化月間を設定する。	体育担当	休み時間には自ら進んで運動している児童がいる一方で、全く運動をしない児童もあり、運動機会が二極化している。平成25年度の体力テストの結果から、全体的に上体起こしに見られる筋力・筋持久力が低い傾向にある。また、高学年の各体力要素のバランスが悪い。	【成果指標】 年間2回体力テストを実施し、2回目の体力テストにおいて、各体力要素全48項目中38項目(8割)以上H25年度の県平均記録の突破を目指す。	10月の体力テストにおいて、各体力要素全48項目中、H25年度県平均記録を突破した項目の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	5月と10月に体力テストを実施する。	A	2回目の体力テストにおいて、90%以上の項目でH25年度の県の平均記録を突破することができた。体育科を中心とした日々の取り組みが児童一人一人の体力向上に確実に繋がっている。	今後も授業での年間を通してコーディネーショントレーニングを位置付けるとともに、強化月間を設定する。
	自他の心身を大切にし、自ら健康な心身をつくらうとする子の育成。	正しい姿勢を意識し生活できる児童を増やす。	養護教諭	勉強中の姿勢や給食時間中の姿勢が悪い児童が多いと感じていた。春の視力検査の結果でも、0.9以下の児童の割合が全体の3割を超えているといった現状である。	【成果指標】 児童(自分の姿勢の様子)・教師(児童の様子)それぞれにアンケートを実施し、正しい姿勢を意識し生活できる児童が増えるよう	正しい姿勢を意識し生活している児童の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	学校保健委員会での正しい姿勢について学習する。(7月、11月に児童アンケートを実施する。)	A	2学期末の児童アンケートの結果、正しい姿勢を意識し生活している児童は、全体の78%から86%に増えた。学校保健委員会のテーマとして取り上げたことで、児童の意識も変わってきた。	単発的になりやすいテーマではあるが、今後も継続していく。
⑥特別支援教育	支援を必要とする児童について、共通理解を深め、具体的な支援を行うことにより、個を伸ばす。	必要に応じて、校内委員会を開く。また、職員全体で共通理解を深める。専門相談員の助言をもとに個に応じた支援を行う。	特別支援教育コーディネーター	校内委員会や児童理解の会で十分に共通理解を図り、必要に応じて専門相談員の支援・指導を受ける。	【努力目標】 職員での共通理解を深め、具体的な支援を行う。	個に応じた指導支援ができたと思える職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合は、具体的な取組を見直す。	7・12月に教職員を対象にアンケート調査を実施。	A	専門相談員の助言をもとに校内委員会を開き、職員の共通理解ができた。校内委員会の開催を年間計画に位置付け、定期的に行えた。専門相談員の助言を活かし、個別の支援の在り方について考えることができた。	今後は、保護者との連携をさらに深めたり、教員間の連携を深めたりして、さらによりよい支援の在り方を探っていく。
	学校ビジョン達成に向け、各主任や分掌担当が学校評価計画に基づいて組織的、効率的に取り組む。	各担当の取組みについての進捗状況や内容について、運営委員会等で情報の交流や共通理解、指導助言を行う。	教 頭	ビジョン達成に向け、それぞれの職員が取り組んでいるが、職員減少に伴い、より組織的、効率的に、成果が上がるようにすることが大切である。	【努力目標】 ビジョン達成に向け、情報の交流や組織的・効率的に学校運営に取り組むことができた。	組織的、効率的な学校運営が図られたと思う教職員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は、内容や協力体制や組織作りの面から再検討する。	7・12月に教職員を対象にアンケート調査を実施。	A	少人数の中、各担当が一生涯懸命に取り組んでいるが、多くの分掌を抱え、多くの時間を費やすこともある。	今後組織での協力体制や分掌の効率化を一層進める必要がある。
⑧研修	校内研修会を充実させ、教職員一人一人の授業力の向上を目指す。	校内研修サポート事業や指導主事の要請訪問等、外部講師を招聘しての研修会を計画的に行うとともに、授業整理会の形式を工夫して校内研修会の充実を図る。	研究主任	昨年度は11月の研究自主発表に向け、校内研修会に年間を通して3回外部講師を招聘した。また、研究授業後の整理会は2グループに分かれてのワークショップ形式を取り入れたが、各グループで話し合われた内容を全体で協議する時間が確保できなかった。	【成果指標】 校内研修会等により、指導力が向上していると思う教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	校内研修会等により、指導力が向上していると思う教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は研修会の内容や形式を再検討する。	7・12月に教職員を対象にアンケート調査を実施。	A	ワークショップ形式の整理会や言語活動検討会など、様々な形式での研修会を開催したことで、教員の指導力向上に繋げることができた。今後も各研修会のねらいを、全教員間で共通理解を図りながら研修会を開催していかなければならない。	今後も様々な形式での研修会を年間を通して計画的に設定し、教員の指導力向上を図っていく。
	積極的に学校公開に努め、地域や保護者と連携し、開かれた学校づくりをする。	開かれた学校づくりのため授業参観・自由参観、ホームページや学校だより等を通して学校の様子を知らせる。	教 頭	学校だよりなど機会ある毎に学校の様子を家庭・地域に知らせている。育友会活動についても保護者の関心は高く協力的である。	【満足指標】 保護者や地域の方が様々な教育活動を理解し満足している。	HPや各種便りでの学校の様子が、わかる保護者の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	CDの場合は速やかに改善策を考える。	7・12月の保護者アンケートで調査する。	A	開かれた学校づくりのため授業参観・自由参観、ホームページや学校だより等を通して学校の様子を知ら、保護者も満足している。多忙化の中、それぞれ努力している姿が目られた。	これまで通り学級便りの発行やホームページの更新に積極的に努める。
⑩教育環境整備	校舎内外の環境美化及び整備に努める。	校舎内外の環境美化がさらに向上するように、清掃の指導や用具の点検を行う。	環境教育担当	清掃については、人数に対して面積が広い。効果的にする必要がある。掃除の児童の班長が交代し、新入生も入ったので、再度掃除の指導を徹底する必要がある。	【努力目標】 清掃の状況把握や用具点検でより良い環境美化に努める。	掃除の点検表で、○の割合が90%以上の児童が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	CDの場合は計画や内容を再検討する。	学期ごとに掃除の点検表で調査する。	B	ほとんどの児童は、リーダーの指導のもと、しっかり取り組むことができた。一部できていない児童も見受けられた。	今後も、指導が必要な児童については、そうした場所の担当や担任の個別指導を進める。

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none">・地域との連携については、どの児童も町づくり行事に積極的に参加し、学校と地域がうまく連携している。・児童・保護者アンケートについては、7月同様良好である。・数年前から取り組んでいる「はげみ学習」もほぼ定着して、重要な15分間となっている。・学校は、少ない職員で、多くの取組があり、大変ではあるが、良く頑張っている。
---------	--